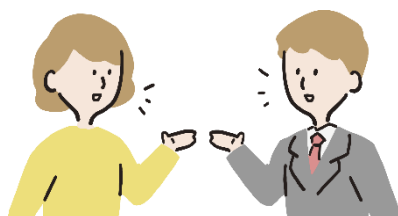




つながりを育む

伝える

広報等の充実





1

施策

広報等の充実

現状と課題 I

広報紙を通じた定期的な情報発信

毎月1回発行している「広報かわさき」は、行政の取組みから町民の身近な活動まで幅広い情報を集約した媒体となっています。今後は紙媒体の広報紙発行とともに、データ化時代に対応した情報発信が求められます。

施策の展開

i 情報発信力の強化

広報かわさきや本町ホームページは、行政からのお知らせやイベント情報、町の話題など、町内のみならず、近隣地域の情報も得られる重要な媒体となっています。

誰が見てもわかりやすい構成に努めるとともに、さらなる内容の充実を図ります。

また、既存の媒体（広報紙やホームページ）のみならず、SNS等を利用した情報発信を検討し、より多くの人に町の魅力を伝えていきます。

ii 住民に開かれた議会の推進

議会だよりや議会のホームページは、町民がわかりやすく、読みたくなるような構成に努めます。また、議会で決定された事項だけではなく、審議の経過についても情報発信を行います。





現状と課題Ⅱ

町民との風通しが良い関係づくり

よりよい町政運営のためには、町民の意見を反映させることが求められます。そのため、行政運営や議会運営において、町民とのよりよい関係づくりが求められます。

施策の展開

ⅰ 住民の声を町政に活かすための取組み

町民の声を町政に活かすことを目的に、議会報告会や住民団体懇親会の開催を積極的に進めます。

また、その内容や結果について、議会だより等を通じて町民に報告します。



つながりを育む

関わる

地域の魅力向上





1

施策

地域の魅力向上

現状と課題 I

町の強みを活かした取組み

人口減少・少子高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面するなか、観光等で地域を訪れる「交流人口」や地域と関わりをもつ「関係人口」が注目されています。

本町はさまざまなスポーツが盛んで、全国規模で活躍する選手もいます。また、平成24(2012)年に川崎町観光協会設立記念事業としてスタートした「かわさきパン博」は、毎年、本町の人口を超える2万人以上の来場者で賑わいます。これら本町の強みを活かし、地域課題の解消につなげる取組みが必要です。

施策の展開

重点

i 人づくり事業の拡大

町内でスポーツや文化・芸術活動等をする個人、団体を対象に、大会等への参加助成制度の充実を図ることで、その活動を支援します。

また、スポーツ合宿等の受入れや施設整備等を検討し、新しい人の流れを創造します。

ii 関係人口の創出

イベントの実施やSNSを活用した情報発信などに力を入れ、本町を訪れた人が、「今後も川崎町と関わりをもちたい」と思うような、魅力あるまちづくりに取組んでいきます。



現状と課題Ⅱ

伝統文化の継承

本町は4つの地区（安真木、田原、川崎、池尻）があり、各地区でさまざまな特色ある伝統が今日まで大切に受け継がれています。これらは町民の誇りであり、貴重な財産です。

豊かな心を育むためには、地域の歴史や文化に触れ合う機会を増やしていくことが重要です。

施策の展開

ⅰ 郷土への愛着の深化

本町の重要な財産である伝統文化を後世に残すためには、次世代を担う若者が、町に対して関心をもち、「この町に生まれてよかった」「ずっと住み続けたい」と、郷土に愛着をもてるような取組みが求められます。そのため、地域の行事や伝統芸能等の継承を推進するための支援や場の創出を検討します。





つながりを育む

創る

地域おこしの推進





1

施策

地域おこしの推進

現状と課題 I

地方創生の推進

国が進める地方創生は、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的としています。人口減少が見込まれる本町においては、庁内の関係各課や町内の関係組織・団体が連携し、本町ならではの独自性・独創性をもった取組みが求められます。

施策の展開

i まちづくりの推進

継続的な魅力あるまちづくりを推進するため、地域おこし健康づくり事業を実施するとともに、地域おこし協力隊制度の活用、かがやけ川崎応援寄付金事業等を進めます。

ii 定住の促進

町内の活力維持や魅力あるまちづくりを推進するため、若年層をはじめとした町外からの移住・定住の方策を検討します。

重点

現状と課題 II

魅力的なまちづくり

まちづくりは一朝一夕で完成するものではなく、長期視点に立った戦略的で継続的な取組みが求められます。そのためには、庁内の関係各課が情報共有と意思統一を図りながら事業を進めることが求められます。

施策の展開

i 地方創生関係事業の推進

町をあげて健康（健幸）づくりに取り組むため、スマートウェルネスシティ構想の実現に向け調査研究を行います。企業誘致や農産物のブランド化、6次産業化等による地元雇用の創出、子育て世代の転出抑制と移住・定住の促進、地域資源を活用した観光振興と交流人口の拡大にも取り組みます。



現状と課題Ⅲ

未利用施設等の増加

町内3中学校の統合に伴い、2校が廃校になるなど、町内の未利用施設および用地は増加しています。

これらを活用した、地域活性化の一助となるような事業の検討・実施が求められます。

施策の展開

i 未利用資源の活用検討

現在使われていない施設や空き地を、地域コミュニティの場やスポーツ合宿等の受入れ施設として整備し再利用したり、誰もが利用しやすい公園として整備したりするなど、有効的な活用方法を検討します。



